

KIRIN



よろこびが
つなぐ世界へ

Joy brings us together

キリングループ 2019年12月期 第2四半期決算

2019年8月6日
キリンホールディングス株式会社

業績サマリー

- ▶ 連結売上収益は前年比+1.3%、連結事業利益は+5.0%で着地。
- ▶ 親会社の所有者四半期利益は、ライオン飲料事業の減損損失や、昨年売却したキリン・アムジェン社の株式譲渡益の反動により減少 (1Q決算にて開示済み)。
- ▶ ファンケル社の議決権割合33.0%の取得を決定。取得価格は約1,293億円。

業績予想修正

- ▶ 連結売上収益は、上半期の業績や為替影響を踏まえ下方修正、連結事業利益は年初予想より変更なし。
- ▶ その他営業費用の増加見通しを受け、当期利益を下方修正。
- ▶ 平準化EPS据え置き。通期配当は年初予想63円 (対前年+12円) より変更なし。

現状の課題認識と今後の方向性について

「成長」をテーマとした3カ年計画を発表

キリングroup・ビジョン2027

「食から医にわたる領域で価値を創造し世界のCSV先進企業となる」



2019年 中期経営計画

再生から成長へ

- 既存事業のキャッシュ創出力を更に高める
- 株主還元の更なる充実を図り、企業価値を最大化する
- 「医と食をつなぐ事業」を立ち上げ、育成し、グループの持続的な成長につなげる

3つの事業領域のそれぞれに進捗あり

食領域 酒類・飲料事業

収益性の拡大

- キリンビール
- ライオン酒類

成長による利益創出

- キリンビバレッジ
- ミャンマー・ブルフリー

収益基盤改善

- メルシャン
- CCNNE

医領域 医薬事業

医薬事業の飛躍的な成長

- 協和キリン

医と食を つなぐ事業

立ち上げと育成

- 協和発酵バイオ
- ファンケル社との資本業務提携

ビール類市場縮小の中、新商品に頼らない戦略で、販売数量増を達成

- 注カブランドの選択と集中により、持続性のある増収増益を目指した戦略を展開。
- 上半期は、ビール類市場全体が -1%と苦戦する中、当社は+1.9%で着地。

2019年
新商品に頼らない戦略

ビール類市場 -1% (推定)
キリンビール +1.9%



ビールカテゴリー市場

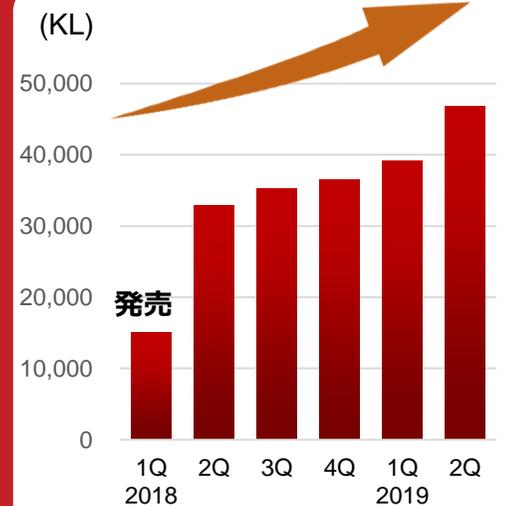
-4% (推定)

一番搾り (缶)
上半期販売数量

+0.6%



「本麒麟」の販売数量推移



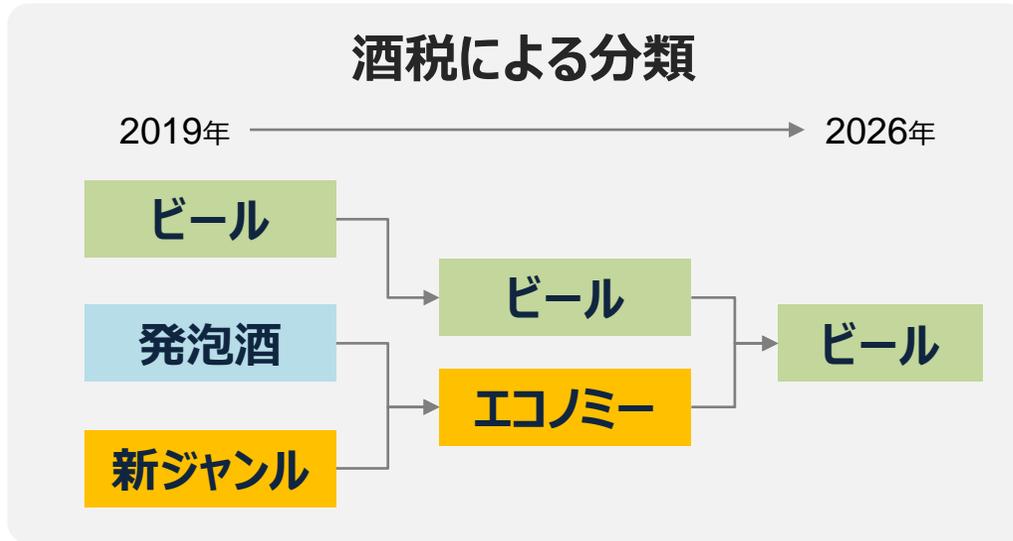
四半期毎の販売数量

2026年酒税一本化までの時間軸を冷静に見極め、ポートフォリオを構築

- ▶ 当面は新ジャンルの根強い需要が続く。「本麒麟」は酒税改定後にも残るブランドとして育成。
- ▶ 将来のミックス改善ドライバーとなるクラフトビール戦略を継続。「タップ・マルシェ」は順調に進捗。

2019年～

2026年～



イメージ図

長期戦略

- ・スタンダードビール、クラフトビールによるミックス改善
- ・各カテゴリーに強いブランドを保有

中期戦略

- ・ビール構成比増に対して一番搾り・クラフトビールに投資
- ・強まる低価格志向に対して本麒麟を強化

長期的視点での既存ブランド強化とコスト効率化を同時に実現、事業利益率は向上

- ▶ ブランド強化につながる施策に集中することでマーケティング費用を効率化。
- ▶ 成長ブランドで販売数量を増加させることができ、製造固定費への影響も最小化。
- ▶ 酒税抜売上収益に対する事業利益率は過去4年間と比較し優位に推移。

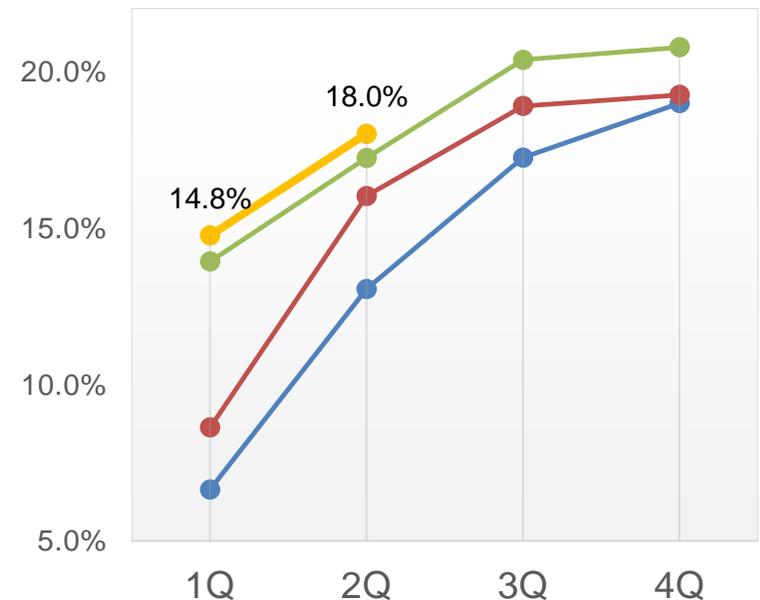
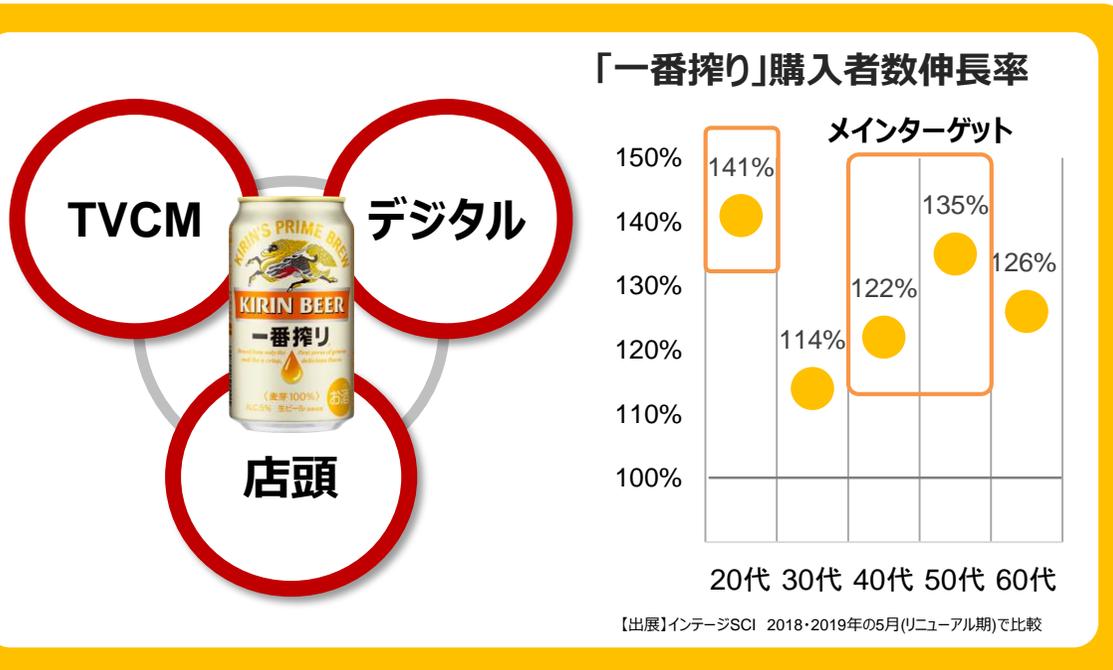
ブランド強化につながる 施策に集中

× 効率的なマーケティング

四半期別 事業利益率

(累月・対酒税抜売上収益)

● 2016 ● 2017 ● 2018 ● 2019



2016年1Q~3Qは日本基準 営業利益ベース

高単価成長カテゴリーへの投資を強化、ミックスが改善

- ▶ 昨年末の最盛期における販促施策の反動、および2Q期間における競争環境の激化等により、販売数量は上半期で -9%と減少。
- ▶ 同影響を均した直近12か月の前年同期比では、ミックスは大きく改善。

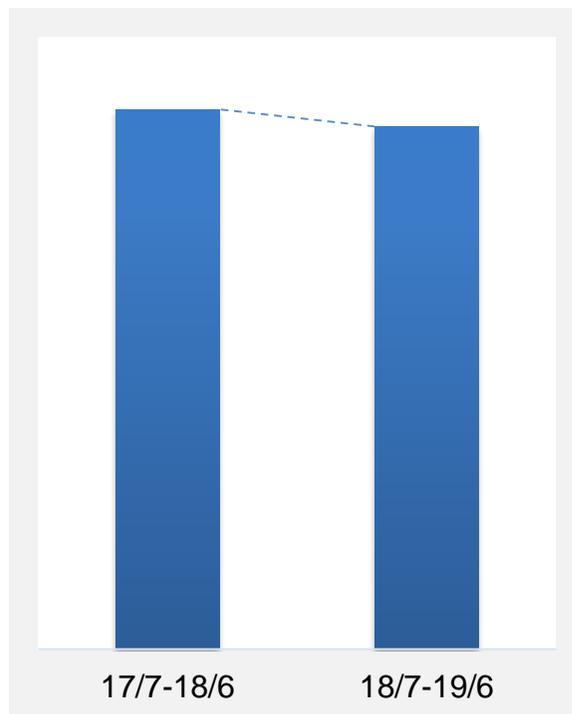
2019年 高単価成長カテゴリー への投資強化

ミックス改善に寄与

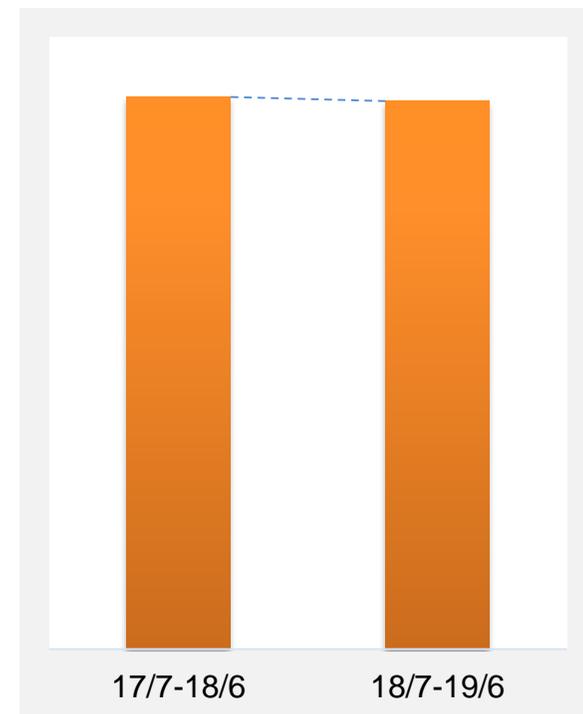
ただし、昨年末の最盛期の施策反動影響や競争環境などを踏まえ、通期売上収益の目標を修正。

通期利益予想は変更なし。
(現地通貨ベース)

数量ベース -3.2%



売上収益ベース -0.7%



※ 前年7月～6月の12か月間の実績で比較
売上収益は現地通貨ベース

無糖領域、小型PETへの注力を継続

- ▶ 「午後の紅茶」がけん引し上半期の販売数量が増加。無糖・低糖カテゴリで大幅増を達成。
- ▶ 「ファイア」は小型PET容器の「ONEDAY BLACK」が好調に推移。缶容器の減少を下支え。
- ▶ 小型PETは順調に拡大。缶容器へのマーケティング費用配分は規律を効かせ抑制。



2019年
基盤ブランド

×

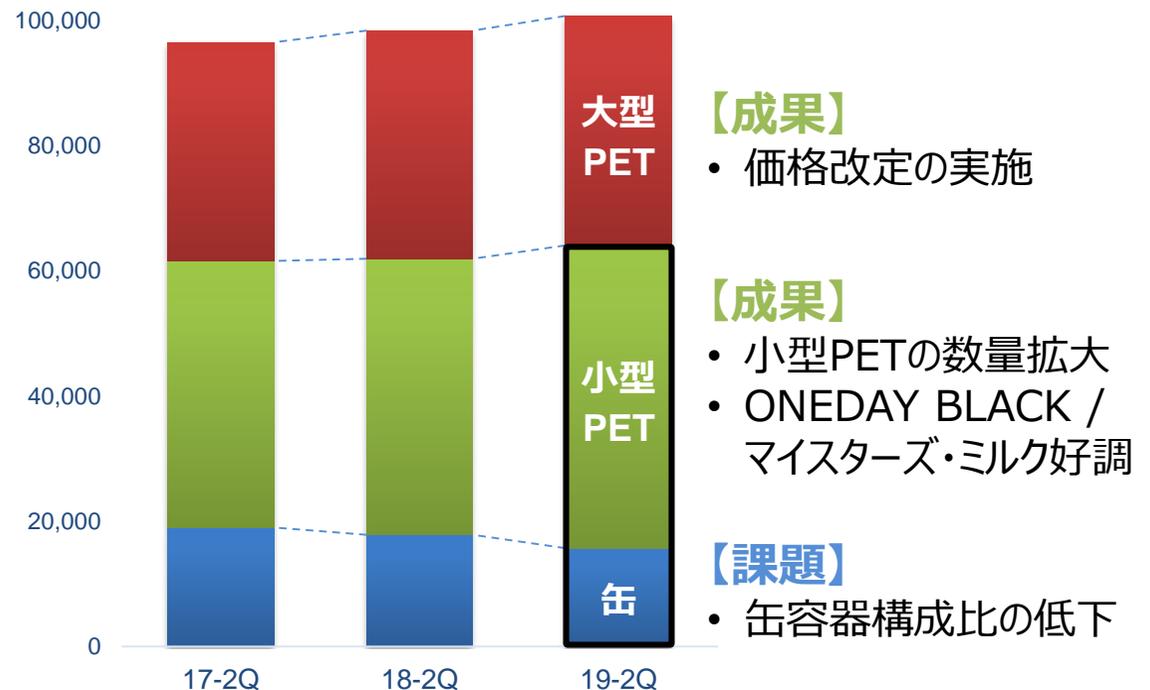
無糖・低糖領域



上半期は対前年
増収増益

(事業利益率 8.2%)

容器別 販売数量推移 (ケース数)



市場の成長を取り込み、販売数量が大幅に増加

- ▶ メインストリームの「ミャンマービール」、エコノミーの「アンダマン・ゴールド」に注力したブランド強化。
- ▶ 今後も、収益性を維持しながら、トップラインの成長を目指す。

市場成長
×
ブランド強化施策
+ 製造能力増強

販売数量
+21%

海外
プレミアム



国内
プレミアム



スタンダード



エコノミー



経済成長に伴い
エントリーユーザーが増加。
エコノミー、スタンダードの
両カテゴリーが大きく伸長。

業績及び戦略は、通期計画達成に向け順調に進捗

- ▶ グローバル戦略品「Crysvita」、「Poteligeo」は市場浸透、売上成長が着実に進む。
- ▶ 7月1日より、社名を「協和発酵キリン」から「協和キリン」に変更。

グローバル戦略品

遺伝性くる病治療剤

KRN23 / プロスマブ
Crysvita

四半期売上収益 (億円、累月・海外のみ)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
2018	-	8	32	77	77
2019	57	134			134

血液がん治療剤

KW-0761 / モガムリズマブ
Poteligeo

四半期売上収益 (億円、累月・海外のみ)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
2018	-	-	-	21	21
2019	24	54			54

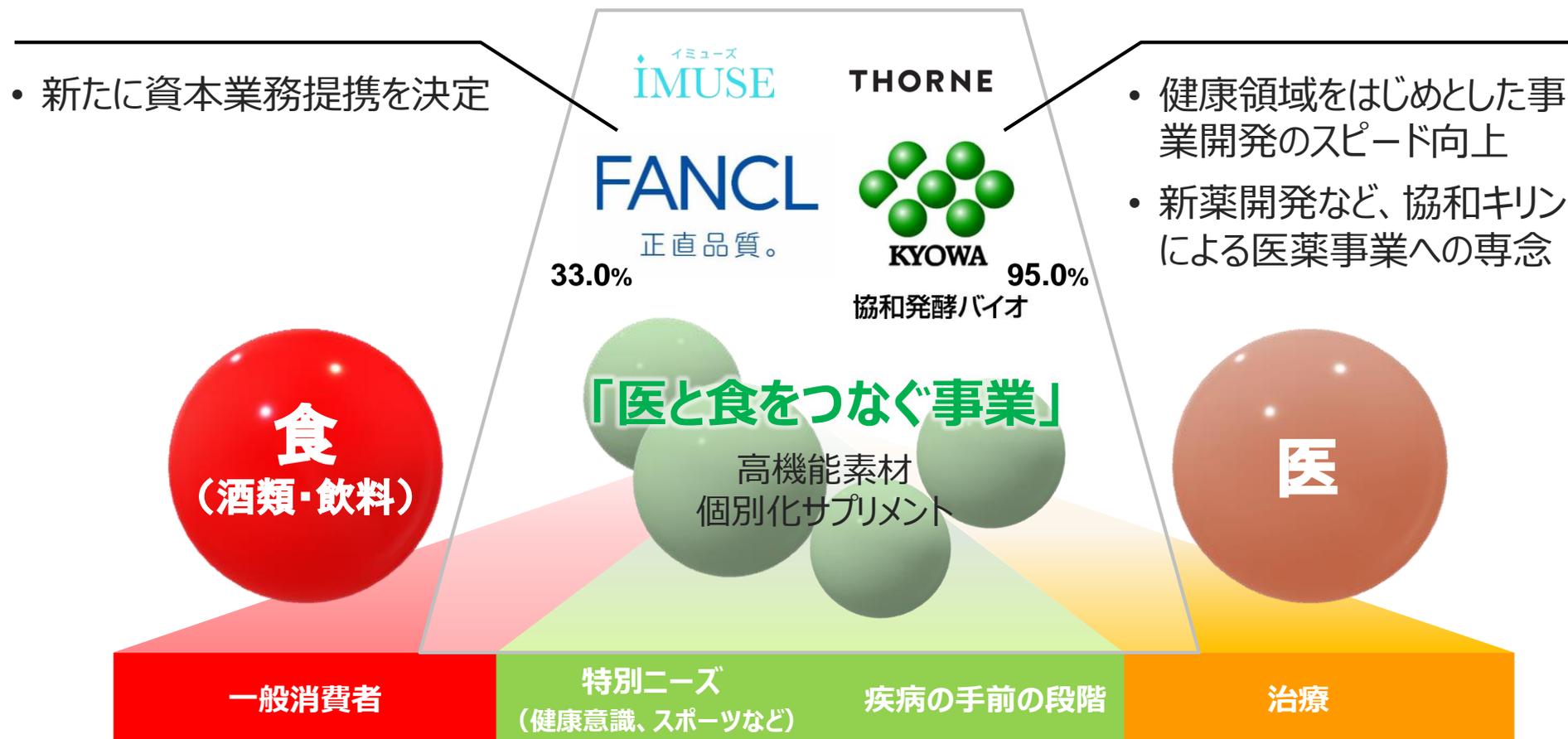
パーキンソン病治療剤

KW-6002 / イストラデフィリン
ノウリアスト (日本製品名)

- ▶ 米国食品医薬品局 (FDA) が新薬承認の再申請を受理
- ▶ 8月下旬に当局判断予定

協和発酵バイオの株式取得に続き、ファンケル社との資本業務提携を発表

- 4月24日に協和発酵バイオの株式取得が完了。キリンホールディングスの直接子会社へ。
- 8月6日にファンケル社との資本業務提携を発表。議決権割合の33.0%を取得予定。



目指す方向性は一致、事業領域・強みは補完的關係へ

- ファンケル社の目指す方向性は、キリンのCSV戦略に一致。
- その上で重複の少ないお互いの領域・強みを戦略的に掛け合わせることで、シナジーを最大化。



<p>目指す方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「健康」 <ul style="list-style-type: none"> - クオリティ・オブ・ライフの向上 - 疾病の予防 	<p>一致</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美しく健康で豊かな生活を支える 健康寿命の延伸
<p>事業領域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「食領域」「医領域」 「医と食をつなぐ事業」 	<p>補完</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「美」と「健康」
<p>強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ブランド（午後の紅茶、生茶など） R&D（発酵・培養・飲料製造） 素材（アミノ酸・免疫・脳機能など） チャネル（自動販売機） 	<p>補完</p>	<ul style="list-style-type: none"> ブランド（ファンケル、アテニアなど） R&D（無添加技術、製剤・加工技術） 素材活用（生活習慣対策サプリメント） チャネル（店舗・ECでの直販）

社会課題の解決を通じて持続的な成長を目指す

**引き続き、既存事業の利益成長に
第一優先で取り組み、単年度事業
利益の計画達成を目指す。**

2019年2Q決算概要

為替影響を受けながらも増収増益

(億円)	2019年2Q実績	2018年2Q実績 ^{※1}	増減	%
売上収益	9,298	9,182	116	1.3%
事業利益 ^{※2}	908	865	44	5.0%
税引前四半期利益	227	1,316	-1,089	-82.8%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	-73	865	-938	—

・減損損失571億円を含む
 ・前年はキリン・アムジェン社株式売却益等を含む

定量目標

	2019年2Q実績	2018年2Q実績	増減	%
平準化EPS ^{※3}	71円	71円	—	—

財務指標 (参考)

	2019年2Q実績	2018年2Q実績	増減	%
EPS	-8.33円	95.22円	-103.55円	—

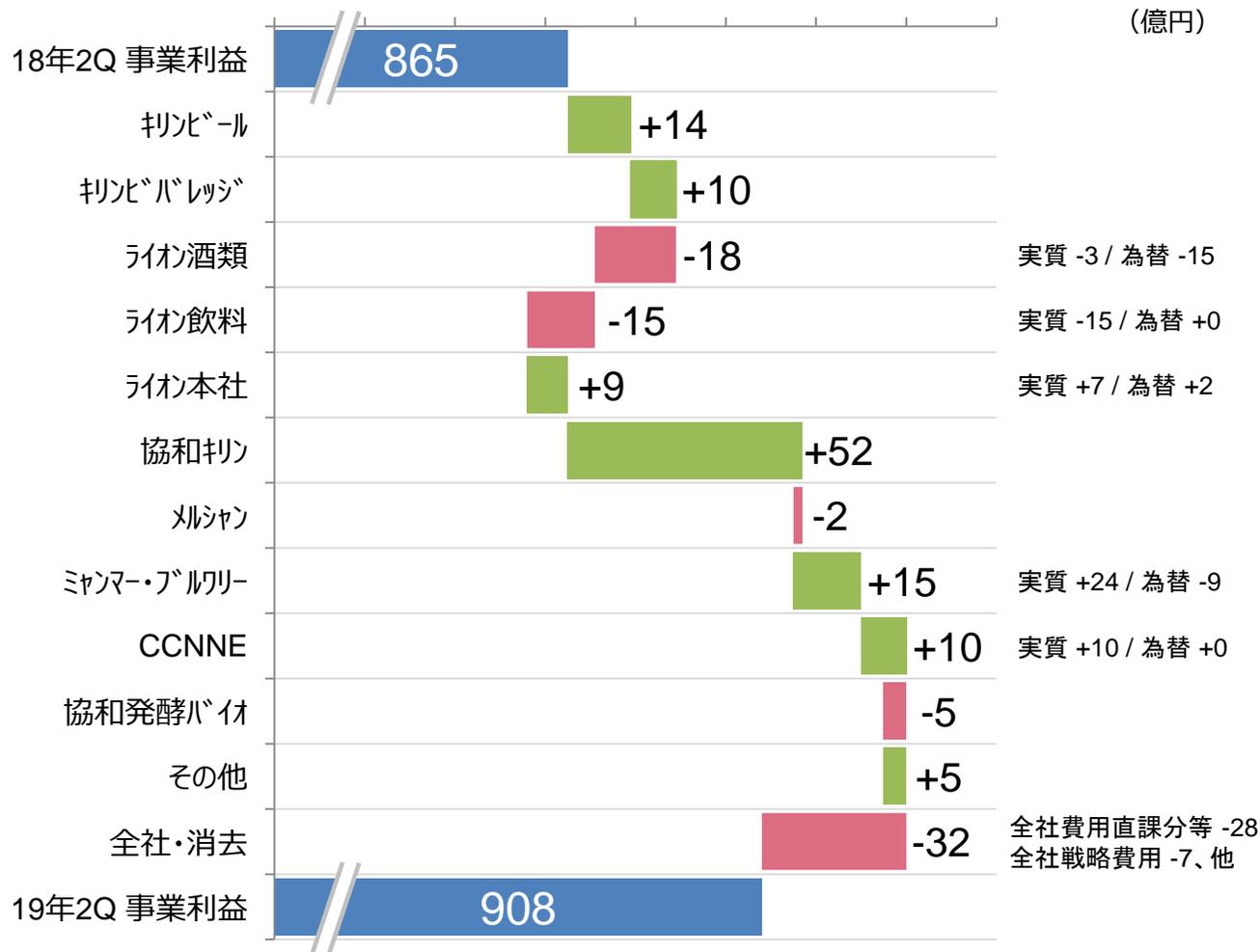
※1 2017年12月期に実施した事業の取得（CCNNE）に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、18年3Q決算発表時に前年実績を微修正済み。

※2 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

※3 明細はp.24参照

2019年2Q 実績：連結事業利益 事業会社別増減

グループ全体として、通期計画に対し順調に推移



対前年

キリンビール

- ▶ 「本麒麟」好調により販売数量前年増。
- ▶ 酒税抜きベースは増収増益。

キリンビバレッジ

- ▶ 容器ミックス悪化、物流費増のマイナスを、大型PET価格改定や販売数量の増加によりカバー。

ライオン酒類

- ▶ 昨年4Qの受注増の反動等の影響をミックス改善や一般管理費の削減でカバーし微減益。

ライオン飲料

- ▶ 乳価上昇に伴う原価増などにより減益。
- ▶ 売却交渉は継続中。

協和キリン

- ▶ グローバル戦略品を中心に好調に推移。

ミャンマー・ブルワリー

- ▶ 販売数量増加や値上げ効果により増益。

協和発酵バイオ

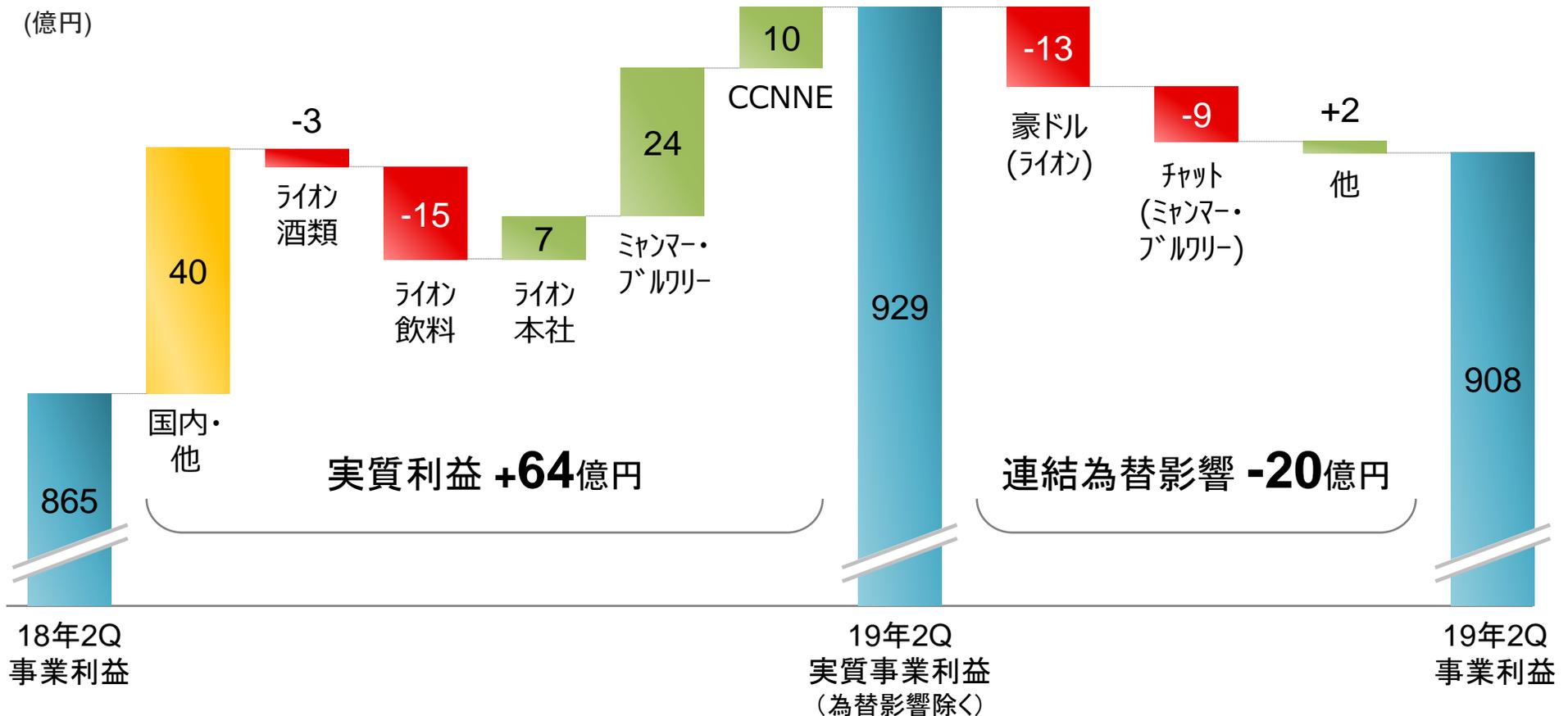
- ▶ 広告投下による販管費増加影響により減益。

全社・セグメント間費用

- ▶ 通期に対しやや進捗遅れも、概ね想定通り。

為替影響を除く実質事業利益は対前年+64億円 (+7.4%)

- ▶ 円高・豪ドル/チャット安を受け、連結為替影響は約-20億円。
- ▶ 好調な国内事業に加え、ミャンマー・ブルワリー、CCNNEなどが為替影響を上回り、増益。



連結売上収益を下方修正、連結事業利益は従来予想より変更なし

- ▶ 為替影響や、オセアニア総合飲料を中心とする事業環境を踏まえ、連結売上収益を修正。
- ▶ その他営業費用増加の一方、平準化EPSは従来予想より変更なし。

■ 通期業績予想

※豪ドル通期予想レートを80円から76円に修正

(億円)	19年通期 (修正予想)	2018年 実績	対前年 増減	19年通期 (従来予想)	修正額	主な修正額
売上収益	19,640	19,305	335	20,000	-360	国内ビール・スピリッツ -70 / 国内飲料 -26 / オセアニア 総合飲料 -236 (内、為替 -161) / その他 -28
事業利益	1,900	1,993	-93	1,900	—	オセアニア総合飲料 -46 (内、為替 -23) / その他 36 / 全社費用・セグメント間取引消去 10
税引前利益	1,230	2,469	-1,239	1,329	-99	その他営業費用 -114 他 ※ライオン飲料事業売却や 協和発酵バイオ取得に関する費用などの積上げ。
親会社の所有者 当期利益	560	1,642	-1,082	629	-69	法人所得税費用 40 非支配持分当期利益 -10

■ 定量目標

	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年増減	19年通期 (従来予想)	修正額
ROIC	5.1%	11.9%	—	8.8%	—
平準化EPS	157円	167円	-10円	157円	—

※通期配当予想63円（前年比+12円）に変更なし

ファンケル社の議決権割合の33.0%を1,293億円で取得

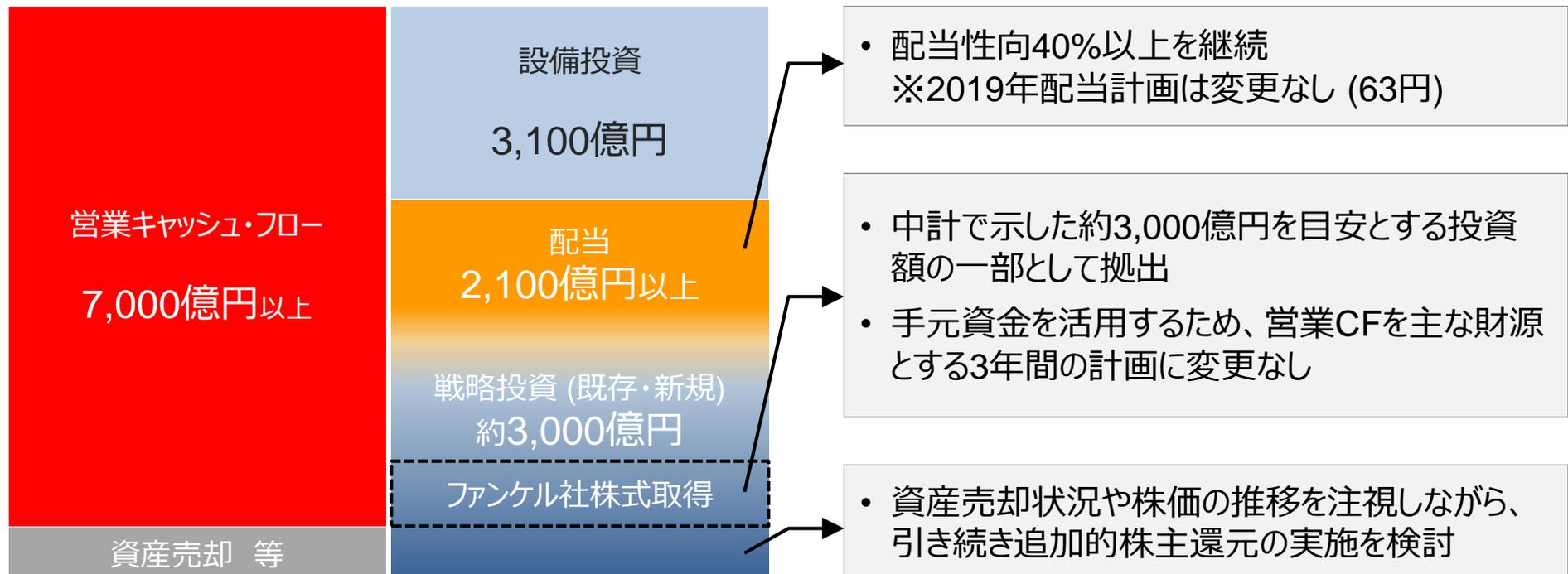
概要

- | | |
|------------|----------------------------|
| 1. 契約締結日 | : 2019年8月6日 |
| 2. 株式譲渡日 | : 2019年9月6日（予定） |
| 3. 株式の取得総数 | : 39,540,400株（議決権割合の33.0%） |
| 4. 取得総額 | : 1,293億円 |

中計で示したキャッシュアロケーション方針に現時点で変更なし

- 株式取得に伴うキャッシュは、中計で示した「戦略投資」額の一部として拠出予定。
- 規律ある投資判断を徹底する財務戦略にブレなし。引き続き21年ROIC10%以上を目指す。
- 資産売却状況や株価の推移を注視しながら、引き続き追加的株主還元の実施を検討。

2019 - 2021年 キャッシュ・フロー計画



資料編

平準化EPS

(億円)		19年2Q実績	18年2Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	-73	865
非継続事業からの四半期利益	②	-	-
税金等調整後その他営業収益／費用	③	696	-217
平準化 四半期利益	④ = (① - ②) + ③	623	648
期中平均株式数 (千株)	⑤	878,031	908,137
平準化EPS (円)	④ ÷ ⑤	71	71

2019年2Q 実績：セグメント別 売上収益

(億円)	19年2Q実績	18年2Q実績	増減	%
連結 売上収益	9,298	9,182	116	1.3%
国内ビール・スピリッツ	3,151	3,155	-4	-0.1%
麒麟ビール	3,071	3,076	-4	-0.1%
その他・内部及びセグメント間取引消去	80	80	0	0.3%
国内飲料	1,342	1,326	16	1.2%
麒麟ビバレッジ	1,351	1,334	17	1.3%
セグメント間取引消去	-9	-8	-1	—
オセアニア総合飲料	1,458	1,592	-133	-8.4%
ライオン	1,458	1,592	-133	-8.4%
酒類	803	878	-75	-8.5%
飲料	655	713	-59	-8.2%
セグメント間取引消去	-0	-0	-0	—
医薬	1,509	1,338	171	12.8%
協和麒麟	1,514	1,343	171	12.7%
セグメント間取引消去	-5	-6	0	—
その他	1,838	1,772	67	3.8%
メルシャン	303	293	10	3.3%
ミャンマー・ブルワリー	177	144	33	23.0%
CCNNE	653	641	12	1.8%
協和発酵バイオ	393	396	-3	-0.8%
その他・内部及びセグメント間取引消去	312	297	15	5.2%

協和麒麟(※)の完全子会社である協和発酵バイオの株式の95%を、2019年4月24日に取得したことに伴いバイオケミカル事業を「その他」へ分類しています。※2019年7月1日付で協和発酵麒麟の商号(社名)を協和麒麟へ変更しています。

通期業績予想修正：セグメント別 売上収益予想

(億円)	2019年通期 (修正予想)	2018年通期 (実績)	対前年増減	%	通期予想	修正額
					(従来)	
連結 売上収益	19,640	19,305	335	1.7%	20,000	-360
国内ビール・スピリッツ	6,933	6,851	82	1.2%	7,003	-70
麒麟ビール	6,749	6,681	68	1.0%	6,820	-71
その他・内部及びセグメント間取引消去	184	170	14	8.4%	183	1
国内飲料	2,878	2,830	48	1.7%	2,903	-26
麒麟ビバレッジ	2,896	2,848	48	1.7%	2,922	-26
セグメント間取引消去	-19	-19	-0	—	-19	—
オセアニア総合飲料	3,055	3,295	-241	-7.3%	3,291	-236
ライオン	3,055	3,295	-241	-7.3%	3,291	-236
酒類	1,756	1,854	-98	-5.3%	1,858	-102
飲料	1,299	1,442	-143	-9.9%	1,433	-135
セグメント間取引消去	-0	—	-0	—	-0	—
医薬	3,040	2,704	336	12.4%	3,040	—
協和麒麟	3,050	2,715	335	12.3%	3,050	—
セグメント間取引消去	-10	-11	1	—	-10	—
その他	3,735	3,625	109	3.0%	3,763	-28
メルシャン	656	648	9	1.4%	667	-10
ミャンマー・ブルワリー	309	262	48	18.2%	283	27
CCNNE	1,315	1,317	-3	-0.2%	1,381	-66
協和発酵バイオ	794	782	12	1.5%	794	—
その他・内部及びセグメント間取引消去	661	617	44	7.1%	639	21

2019年2Q 実績：セグメント別 事業利益

(億円)	19年2Q実績	18年2Q実績	増減	%
連結 事業利益	908	865	44	5.0%
国内ビール・スピリッツ	333	320	13	4.1%
麒麟ビール	324	310	14	4.6%
その他	9	11	-1	-10.1%
国内飲料	110	100	10	9.9%
麒麟ビバレッジ	110	100	10	9.9%
オセアニア総合飲料	182	205	-23	-11.4%
ライオン	182	205	-23	-11.4%
酒類	211	229	-18	-7.7%
飲料	-4	11	-15	—
本社	-26	-35	9	—
医薬	326	274	52	18.9%
協和麒麟	326	274	52	18.9%
その他	156	133	24	18.0%
メルシャン	5	8	-2	-29.7%
ミャンマー・ブルワリー	81	66	15	23.2%
CCNNE	19	9	10	110.3%
協和発酵バイオ	29	34	-5	-16.1%
その他	23	16	6	39.9%
全社費用・セグメント間取引消去	-200	-168	-32	—

通期業績予想修正：セグメント別 事業利益予想

(億円)	2019年通期 (修正予想)	2018年通期 (実績)	対前年増減	%	通期予想	修正額
					(従来)	
連結 事業利益	1,900	1,993	-93	-4.7%	1,900	—
国内ビール・スピリッツ	847	827	20	2.4%	847	—
麒麟ビール	835	809	26	3.2%	835	—
その他	12	18	-6	-32.0%	12	—
国内飲料	240	233	7	2.9%	240	—
麒麟ビバレッジ	240	233	7	2.9%	240	—
オセアニア総合飲料	436	518	-82	-15.9%	482	-46
ライオン	436	518	-82	-15.9%	482	-46
酒類	495	533	-38	-7.1%	521	-26
飲料	29	51	-22	-43.6%	57	-28
本社	-88	-67	-22	—	-96	8
医薬	540	504	36	7.1%	540	—
協和麒麟	540	504	36	7.1%	540	—
その他	300	271	29	10.6%	264	36
メルシャン	25	26	-0	-1.7%	25	—
ミャンマー・ブルワリー	118	101	17	17.3%	95	23
CCNNE	42	28	13	47.1%	38	4
協和発酵バイオ	80	81	-1	-1.6%	80	—
その他	35	35	-0	-1.0%	25	9
全社費用・セグメント間取引消去	-463	-360	-103	—	-473	10

2019年2Q 実績：キリンビール

(千KL)	19年2Q (実績)	18年2Q (実績)	対前年
ビール類計	793	778	1.9%
ビール	252	272	-7.1%
発泡酒	186	201	-7.4%
新ジャンル	354	306	15.8%
RTD	177	165	7.6%
ノンアルコール飲料	17	18	-6.2%

(億円)	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減	%
売上収益	3,071	3,076	-4	-0.1%
酒税抜売上収益	1,802	1,799	3	0.2%
事業利益	324	310	14	4.6%

補足

- ▶ ビール類市場は、前年同期比 -1%程度と推定。
- ▶ キリンビールの販売数量は、好調な販売が続く「本麒麟」が牽引し前年比 +1.9%。
- ▶ 「一番搾り」は、リニューアルを行った4月以降、缶容器の販売が好調に推移したが、業務用商材が前年を下回る販売数量となったことや、前年に発売した数量限定商品の反動により、ブランド全体で販売数量は前年比 -5%で着地。
- ▶ ビール類におけるビールカテゴリーの構成比が低下したことや、物流費の高騰などにより限界利益は前年より22億円減少。
- ▶ 販売費は費用対効果の精査により効率化を進め、ブランド力強化を果たしながらも前年から12億円減少。
- ▶ 事業利益は、限界利益の減少を販売費など固定費の減少で補い、前年から4.6%増加。

2018年2Q 事業利益 (億円)		310	主な内容
対前年 増減 (億円)	酒類等限界利益 減	-22	ビール類計 -22億 (ビール減 -19千kl、発泡酒減 -15千kl、新ジャンル増 48千kl) ビール類以外計 9億 (RTD増 12千kl、ノンアル減 -1千kl) 品種構成差異等 -10億
	原材料費 減	3	
	販売費 減	12	販売促進費減 18億、広告費増 -6億 (計323億→311億)
	その他費用 減	21	全社費用直課分減 12億 他
計		14	
2019年2Q 事業利益		324	

通期業績予想修正：麒麟ビール

(千kl)	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	19年通期 (従来予想)	修正値
ビール類計	1,745	1,710	2.0%	1,745	—
ビール	574	590	-2.8%	590	-16
発泡酒	403	422	-4.6%	420	-17
新ジャンル	769	698	10.1%	735	34
RTD	385	359	7.1%	390	-5
ノンアルコール飲料	39	39	-0.8%	39	—

(億円)	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	%	19年通期 (従来予想)	修正額
売上収益	6,749	6,681	68	1.0%	6,820	-71
酒税抜売上収益	3,946	3,897	49	1.3%	3,981	-35
事業利益	835	809	26	3.2%	835	—

業績予想修正

販売数量計画

- ▶ 上半期の進捗から、ビールと発泡酒を下方修正するも新ジャンルによってカバーし、ビール類計では年初計画通りの販売数量を目指す。
- ▶ 下半期は引き続き「一番搾り」缶と「本麒麟」に注力しビール類全体で前年を上回る計画。

売上収益・事業利益

- ▶ 各カテゴリーの販売数量の修正に伴い、売上収益を下方修正。
- ▶ 上半期に効率化した量販チャネルでのキャンペーン費用や業務用チャネルの固定販促費を、販売費減として計上。
- ▶ 上半期での進捗を踏まえ、その他費用を修正。
- ▶ 年初計画通りの事業利益達成を目指す。

18年通期 事業利益 (実績) (億円)	809	主要内容
対前年増減 (億円)		ビール類計 3億 (ビール減 -16千kl、発泡酒減 -19千kl、新ジャンル増 71千kl) ビール類以外計 23億 (RTD増 26千kl、ノンアル減 -0千kl) 品種構成差異等 -26億
酒類等限界利益 減	-0	
原材料費 増	-3	
販売費 減	13	販売促進費・広告費減 (計621億→608億)
その他費用 減	16	全社費用直課分減 24億 他
計	26	
19年通期 事業利益 (修正予想)	835	

従来予想

18年通期 事業利益 (実績)	809
対前年増減 (億円)	
酒類等限界利益 増	25
原材料費 増	-3
販売費 減	1
その他費用 減	3
計	26
19年通期 事業利益 (従来予想)	835

2019年2Q 実績：キリンビバレッジ

販売数量 (万ケース)		19年2Q (実績)	18年2Q (実績)	増減
カテゴリー別	紅茶	2,665	2,438	9.4%
	日本茶	1,597	1,576	1.3%
	コーヒー飲料	1,291	1,334	-3.2%
	果実・野菜飲料	1,184	1,262	-6.2%
	炭酸飲料	976	1,013	-3.6%
	健康・スポーツ飲料	503	500	0.4%
	水	1,978	2,008	-1.5%
	その他	825	753	9.6%
容器別	缶	1,570	1,770	-11.3%
	大型PET	3,673	3,643	0.8%
	小型PET	4,815	4,411	9.2%
	その他	961	1,060	-9.4%
計		11,019	10,884	1.2%

(億円)	19年2Q (実績)	18年2Q (実績)	増減	%
売上収益	1,351	1,334	17	1.3%
事業利益	110	100	10	9.9%

2018年2Q 事業利益 (億円)		100	主な内容
対前年 増減 (億円)	清涼飲料限界利益 増	23	販売数量増 135万ケース 6億 商品・容器構成差異等 17億
	原材料費等 増	-9	原料費減 2億、材料費増 -8億、加工費増 -2億
	販売費 増	-4	販売促進費増 -6億、広告費減 2億 (計165億 → 169億)
	その他費用 増	-0	全社費用直課分減 4億、自販機償却費増 他
	計	10	
2019年2Q 事業利益		110	

補足

清涼飲料市場

▶ 清涼飲料市場は -1%で推移。

販売数量

▶ 「午後の紅茶」ブランドは、「おいしい無糖」の大幅増、3月発売の「ザ・マイスターズ ミルクティー」の好調などにより +9%。

▶ 「ファイア」ブランドは、4月発売の無糖PETコーヒー「ONEDAY BLACK」の好調により -4%となり、1Qの -13%から回復基調。

業績補足

▶ 缶減少、物流費増加などが限界利益減少要因となったものの、小型PET増加、大型PET価格改定に加え、単年度要因である「トロピカーナ」の限界利益プラスにより、ミックスが改善。

▶ 販売費、その他費用は削減したが、前年度に計上されていない「トロピカーナ」にかかる固定費が販売スキーム変更により今年度に計上された結果、一時的に費用が増加。

通期業績予想修正：キリンバレッジ

販売数量（万ケース）		19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	19年通期 (従来予想)	修正値
カテゴリー別	紅茶	5,490	5,190	5.8%	5,339	151
	日本茶	3,588	3,451	4.0%	3,558	30
	ｺｰﾋｰ飲料	2,593	2,632	-1.5%	2,929	-336
	果実・野菜飲料	2,495	2,530	-1.4%	2,509	-14
	炭酸飲料	2,277	2,155	5.6%	2,161	116
	健康・ｽﾎﾟｰﾂ飲料	1,090	1,238	-12.0%	1,178	-88
	水	4,242	4,319	-1.8%	4,249	-7
容器別	その他	1,726	1,801	-4.1%	1,678	48
	缶	3,358	3,541	-5.2%	3,574	-216
	大型PET	7,918	7,911	0.1%	7,933	-15
	小型PET	10,117	9,700	4.3%	9,969	148
	その他	2,107	2,165	-2.6%	2,125	-18
計		23,500	23,316	0.8%	23,600	-100

(億円)	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	%	19年通期 (従来予想)	修正額
売上収益	2,896	2,848	48	1.7%	2,922	-26
事業利益	240	233	7	2.9%	240	—

18年通期 事業利益 (実績) (億円)		233	主な内容	
対前年 増減 (億円)	清涼飲料限界利益 増	55	販売数量増 188万ケース 9億 商品・容器構成差異等 46億	
	原材料費等 増	-8	原料費減 5億、材料費増 -10億、加工費増 -3億	
	販売費 増	-24	販売促進費・広告費増 (計367億 → 392億)	
	その他費用 増	-16	全社費用直課分減 8億、自販機償却費増 他	
計		7		
19年通期 事業利益 (修正予想)		240		

業績予想修正

販売数量・売上収益

- ▶ 清涼飲料全体で年初計画から100万ケース下方修正。2Qまでの実績を反映し「ファイア」缶の販売目標を引下げ。
- ▶ 一方、「午後の紅茶」を中心とした小型PETの上方修正、大型PET価格改定等により、増収を維持。

事業利益

- ▶ 今年度の「トロピカーナ」販売スキーム変更は、年初計画から修正なく事業利益プラスに僅かながら寄与する見込み。(内訳として、商品・容器構成差異等にプラス、販売費その他費用にマイナス計上)
- ▶ これにより、容器ミックス減及び物流費増をカバーし、小型PET上方修正と併せ、限界利益を引上げ。
- ▶ 「トロピカーナ」にかかる固定費が増加するものの、小型PET強化に販売費の配分を高めるとともに、その他コストにもコントロールも効かせ効率化。

従来予想

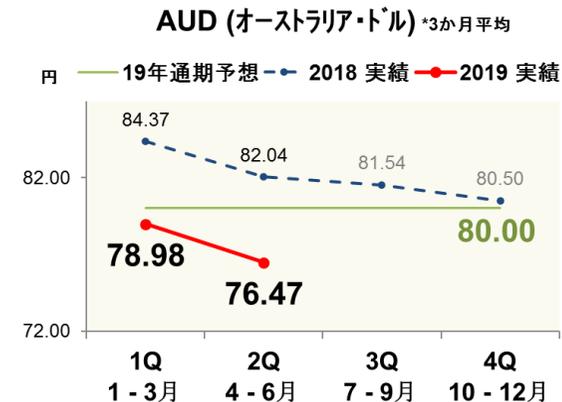
18年通期 事業利益 (実績)		233
対前年 増減 (億円)	清涼飲料 限界利益 増	37
	原材料費等 増	-11
	販売費 増	-19
	その他費用 増	-0
計		7
19年通期 事業利益 (従来予想)		240

2019年2Q 実績：ライオン



	円ベース(億円)			
	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,458	1,592	-133	-8.4%
酒類	803	878	-75	-8.5%
飲料	655	713	-59	-8.2%
事業利益	182	205	-23	-11.4%
酒類	211	229	-18	-7.7%
飲料	-4	11	-15	—
本社	-26	-35	9	—

	豪ドルベース(百万豪ドル)			
	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,877	1,912	-36	-1.9%
酒類	1,034	1,055	-21	-2.0%
飲料	843	857	-15	-1.7%
事業利益	234	246	-12	-5.0%
酒類	272	275	-3	-1.1%
飲料	-5	13	-18	—
本社	-33	-42	9	—



ライオン社は、IFRS会計上3か月毎の平均レートを積上げる。

	酒類	飲料
販売数量増減	-9.0%	-2.0%

事業利益増減 (百万豪ドル)	2018年2Q 実績	275	13
	販売数量 増減	-42	-3
	その他	39	-16
	2019年2Q 実績	272	-5

補足

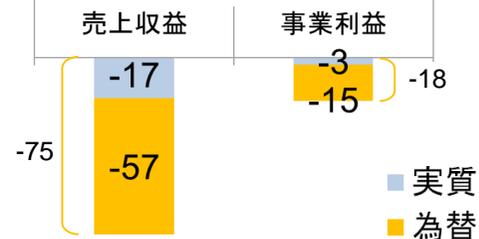
ライオン酒類

- ▶ 最盛期にあたる昨年4Q期間の受注増の反動および競争環境の激化等により販売数量は-9%。
- ▶ 「Furphy」「Iron Jack」「Hahn Ultra Crisp」の販売好調による単価ミックスの改善や、海外クラフトの売上増加により、売上収益は-2%。
- ▶ 一般管理費等の削減により事業利益は、ほぼ前年並みで着地。

ライオン飲料

- ▶ 引き続き干ばつなどの異常気象が、豪州のほぼ全域で原料乳の乳価・安定供給に影響を及ぼし、売上収益、事業利益が共に減少。

連結為替影響 ライオン酒類 (億円)



連結為替影響 ライオン飲料 (億円)



通期業績予想修正：ライオン

	円ベース(億円)				19年通期(従来予想)	
	19年通期(修正予想)	18年通期(実績)	対前年増減	%	修正額	
売上収益	3,055	3,295	-241	-7.3%	3,291	-236
酒類	1,756	1,854	-98	-5.3%	1,858	-102
飲料	1,299	1,442	-143	-9.9%	1,433	-135
事業利益	436	518	-82	-15.9%	482	-46
酒類	495	533	-38	-7.1%	521	-26
飲料	29	51	-22	-43.6%	57	-28
本社	-88	-67	-22	—	-96	8

	豪ドルベース(百万豪ドル)				19年通期(従来予想)	
	19年通期(修正予想)	18年通期(実績)	対前年増減	%	修正額	
売上収益	4,019	4,016	3	0.1%	4,114	-95
酒類	2,310	2,260	50	2.2%	2,322	-12
飲料	1,709	1,756	-47	-2.7%	1,792	-83
事業利益	574	634	-60	-9.5%	602	-29
酒類	652	651	0	0.1%	652	—
飲料	38	63	-25	-39.5%	71	-33
本社	-116	-81	-35	—	-120	4

業績予想修正

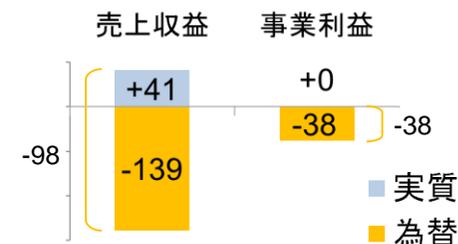
ライオン酒類

- ▶ 売上収益は下方修正するも、クラフト、プレミアム、コンテンポラリー等注力カテゴリーへの投資継続や、海外クラフト等の貢献により、豪ドルベースで対前年では増収となる計画。
- ▶ 注力カテゴリーでの利益成長を目指す一方、容器保証金制度・エネルギーコスト上昇・ICT投資等の影響により、事業利益はほぼ前年並みを見込む。

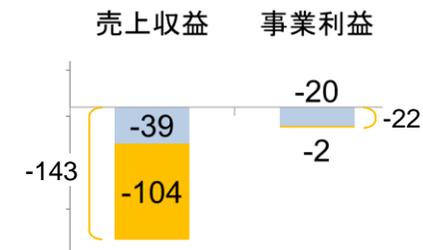
ライオン飲料

- ▶ 売上収益は、下半期に見込んでいるチーズ事業の連結除外等の影響により、対前年で減収となる予定。
※オーストラリア当局の審査状況による
- ▶ その他、原料乳の乳価上昇、供給の不安定化により、事業利益も減少の見込み。

連結為替影響 ライオン酒類 (億円)



連結為替影響 ライオン飲料 (億円)



2019年2Q 実績 / 通期業績予想修正：協和キリン

(億円)	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,509	1,338	171	12.8%
協和キリン	1,514	1,343	171	12.7%
セグメント間取引消去	-5	-6	0	—
事業利益	326	274	52	18.9%
協和キリン	326	274	52	18.9%

通期業績予想修正（修正なし）				
(億円)	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	%
売上収益	3,040	2,704	336	12.4%
協和キリン	3,050	2,715	335	12.3%
セグメント間取引消去	-10	-11	1	—
事業利益	540	504	36	7.1%
協和キリン	540	504	36	7.1%

19年通期 (従来)	対修正 予想
3,040	—
3,050	—
-10	—
540	—
540	—

補足

売上収益

- 国内は、2018年4月の薬価引き下げや、後発品の市場浸透の影響があったものの、新製品ジースタや、オルケディア、リツキシマブBSなどの売り上げ伸長により、売上収益が増加。
- 海外は、グローバル戦略品であるCrysvita、Poteligeoなどの新製品が、好調に市場浸透。

事業利益

- 海外販管費・上市準備費用等が増加した一方、売上収益の増加や、海外新製品売上の増加による原価率の低減などにより、事業利益が増加。

業績予想修正

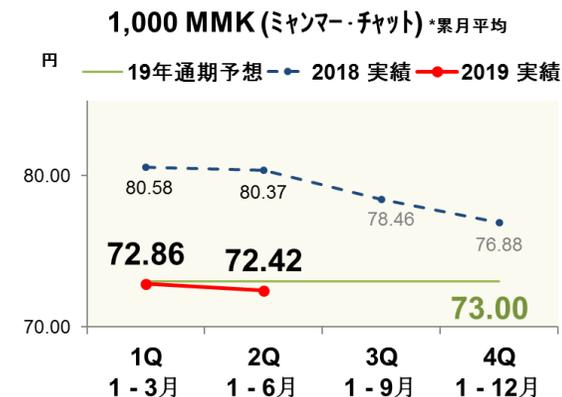
- 海外は、グローバル戦略品を含め、通期見通しに対し順調に進捗。
- 国内はアレルギー関連製品の売り上げの上振れもあり、強めに推移しているが、10月の薬価改定影響等を考慮し、通期計画は年初予想から変更なし。

2019年2Q 実績 / 通期業績予想修正 : ミャンマー・ブルワリー



	円ベース(億円)			
	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減額	%
売上収益	177	144	33	23.0%
事業利益	81	66	15	23.2%

	チャットベース(Billionチャット)			
	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減額	%
売上収益	245	179	65	36.5%
事業利益	112	82	30	36.7%



補足

2Q業績

- ▶ 経済成長やアルコール飲用人口の拡大に加え、例年5月上旬から始まる雨季が1ヵ月遅れたことで、ビール市場は前年から大きく伸長。
- ▶ ミャンマー・ブルワリーは効果的な販促施策の実行により、主力の「ミャンマービール」と、伸長が続くエコノミーカテゴリーの「アンダマン・ゴールド」を中心に市場を上回る販売数量増加となった(+21.0%)。
- ▶ 販売数量増と年初に実施した値上げ効果により増収増益を達成。

業績予想修正

- ▶ 2Qまでの進捗を鑑み売上収益、事業利益を上方修正。

連結為替影響 ミャンマー・ブルワリー (億円)



通期業績予想修正

	円ベース(億円)				修正額	
	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	%	19年通期 (従来予想)	修正額
売上収益	309	262	48	18.2%	283	27
事業利益	118	101	17	17.3%	95	23

	チャットベース(Billionチャット)				修正額	
	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	%	19年通期 (従来予想)	修正額
売上収益	424	340	83	24.4%	387	37
事業利益	162	131	31	23.5%	130	32

2019年2Q 実績 / 通期業績予想修正 : CCNNE

(Coca-Cola Bottling Company of Northern New England)

	円ベース(億円)				USドルベース (million \$)			
	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減額	%	19年2Q 実績	18年2Q 実績	増減額	%
売上収益	653	641	12	1.8%	594	591	3	0.4%
事業利益	19	9	10	110.3%	17	8	9	107.7%

補足

2Q業績

- ▶ 米国における6月下旬から7月上旬にかけての需要期差異、出荷日減などの前年比マイナス要因があったものの、販売は好調に推移し前年並みを維持(-0.3%)、値上げ効果により若干の増収。
- ▶ 単価増に加え、前年に実施した製造拠点再編成を始めとするサプライチェーン・業務効率化、原材料コストの減少等により、事業利益が増加。

業績予想修正

- ▶ 収益性を意識した営業戦略を進めることにより、通期売上収益は引き下げ。
- ▶ 好調な販売、事業利益の計画進捗を踏まえ、通期事業利益を上方修正。引き続きPMIを着実に実行に移し、利益率を向上させる。



連結為替影響 CCNNE (億円)



通期業績予想修正

	円ベース(億円)				修正額	
	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	%	19年通期 (従来予想)	修正額
売上収益	1,315	1,317	-3	-0.2%	1,381	-66
事業利益	42	28	13	47.1%	38	4

	USドルベース (million \$)				修正額	
	19年通期 (修正予想)	18年通期 (実績)	対前年 増減	%	19年通期 (従来予想)	修正額
売上収益	1,195	1,193	2	0.1%	1,255	-60
事業利益	38	26	12	47.6%	35	4

■ サンミゲルビール 現地ベースの業績状況 (2018年10月～2019年3月)

(百万ペソ)	2018年1-3月		2018年4-6月		2018年7-9月		2018年10-12月		2018年累計		2019年1-3月	
	実績	増減	実績	増減	実績	増減	実績	増減	実績	累計	実績	増減
Sales	29,814	18%	32,696	18%	30,852	12%	35,887	10%	129,249	14%	34,832	17%
Operating Income	8,313	25%	8,998	22%	8,601	17%	9,373	-4%	35,285	13%	9,556	15%
Operating Income Ratio	27.9%		27.5%		27.9%		26.1%		27.3%		27.4%	

出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights

2Q連結取込み期間

■ 持分法による連結取込み

(2018年10月～2019年3月)

(億円)	2019年 2Q	2018年 2Q	増減
当期利益 (SMB)	273	255	7%
連結取込	132	124	6%

為替レート : 1ペソ=2.14円 (前年同期: 2.17円)

■ キリンホールディングス受取配当金

	2019年 2Q	2018年 2Q	増減
配当金 (億円)	79	61	30%
1株当たり配当金 (ペソ)	0.25	0.20	25%

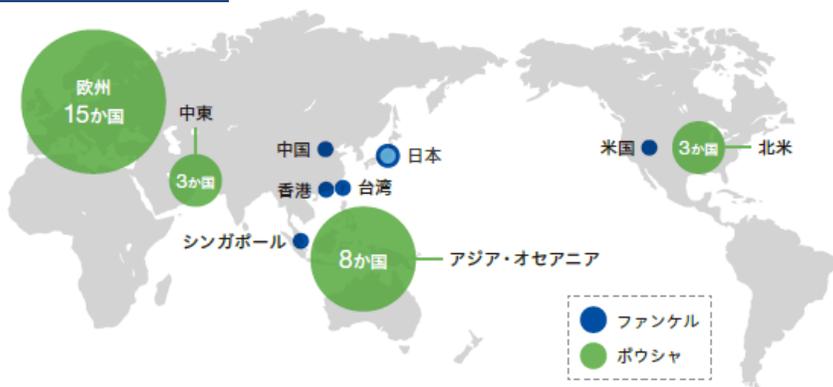
配当金についてはキャッシュインベースで計上

ファンケル社の概要



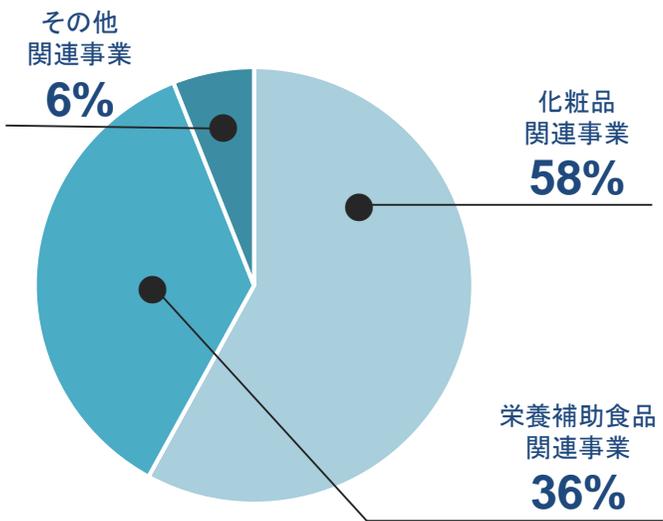
社名	株式会社ファンケル（証券コード:4921）
設立年月日	1981年8月18日
本社所在地	神奈川県横浜市中区山下町89-1
事業内容	化粧品・健康食品の研究開発、製造および販売
代表者	代表取締役 社長執行役員 CEO 島田 和幸
資本金	107億9,500万円
時価総額	3,303億円（2019年7月31日時点）
売上高	1,224億円（2018年度）
営業利益	123億円（2018年度）

グローバル展開



※ボウシャ：2002年にカリフォルニアで誕生した海外専用ブランド

事業別売上高

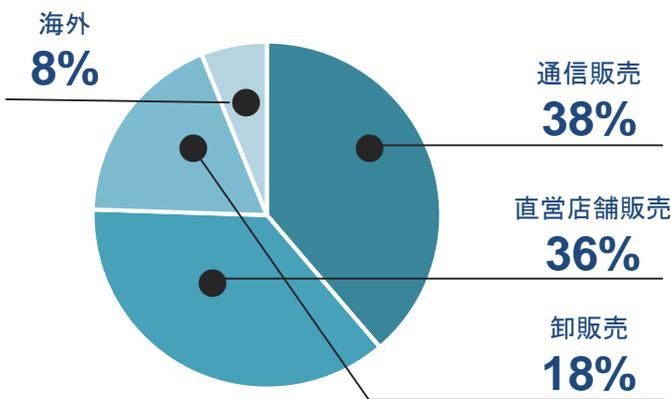


「ファンケル」「アテニア」等の化粧品



「カロリミット」「内脂サポート」等のサプリメント類

チャネル別売上高



うちネット通販53%

ファンケル 204店
アテニア 17店

ドラッグストア、コンビニエンスストア、総合スーパー等

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together